

図書館の本の並び方

- 図書館の本は、テーマごとに分かれて、本棚に並んでいます。
- テーマによって本を分類するルールがあり、日本十進分類法（NDC）といいます。日本の多くの図書館では、このNDCを使っています。
- NDCは、1は哲学、2は歴史、というように、テーマごとに数字が決まっています。
- そして、テーマが細かくなると、数字のケタも増えていきます。

2	歴史
---	----

2 1	歴史 - 日本
-----	---------

2 1 3	歴史 - 日本 - 関東地方
-------	----------------

- このNDCの数字を分類番号といいます。
- 分類は数字なので、本棚の左から右に向かって、数字の順に本が並ぶようになっています。
- 本の背中には、ラベルが貼ってあり、ラベルに請求記号が書いてあります。
- 請求記号は、分類番号・図書記号・巻冊記号の組み合わせでできています。

9 1 3 . 6	→ 分類番号	} これを 請求記号 といいます
ア	→ 図書記号（著者の頭文字）	
1	→ 巻冊記号（シリーズの巻数）	

- 例えば、9 1 3 . 6は日本文学の小説の近代、を表していますが、ここに分類される本はとてたくさんあります。そういう時は、9 1 3 . 6の中をさらに図書記号の五十音順に並べます。さらに、アの中を著者名順に並べると、同じ著者の本が集まるので、探しやすくなります。
- 図書館の本は、このようなルールに従って並んでいます。
- 東村山の図書館の本は、大人の本、子どもの本、ティーンズの本の3つに分かれています。そして、子どもの本はシールで色分けしたり、ティーンズの本はテーマ別分類の番号をつけたりしています。